

## 事業所における自己評価総括表

事業所における自己評価総括表				
○事業所名	ほわわ大田			
○保護者評価実施期間	2026年1月7日		～	2026年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2026年 3月 3日		～	2026年 3月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成	2026年3月7日			
○ 分析結果				
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等	
1	個別支援の質の高さと保護者からの厚い信頼	個別支援計画の作成過程で保護者の意向を丁寧に汲み取り、納得感のある説明を徹底している。	支援の成果(お子様の変化)をより具体的に言語化し、日々の連絡帳や面談でフィードバックする仕組みを強化する。	
2	安全・清潔で安心感のある療育環境の維持	施設の清掃・消毒の徹底に加え、バリアフリー化や防犯対策など、ハード面での安全確保をスタッフ全員で意識している。	備品の老朽化チェックや安全点検をルーチン化し、常に「一番安全な場所」であり続ける体制を維持する。	
3	スタッフの誠実な向き合いと高い倫理観	虐待防止やプライバシー保護への意識が高く、保護者からの相談に対しても迅速かつ誠実に回答する体制が整っている。	スタッフ間の事例検討会を定期化し、個々の「懸命な向き合い」を組織としての「チーム支援」へと昇華させる。	
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思う	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等	
1	非常災害対策(BCP等)の周知不足	マニュアルは策定し訓練も実施しているが、保護者や一部スタッフへの具体的な内容共有が「形式的」になっていた。	訓練の様子を写真付きで公開し、災害時の連絡フロー図を分かりやすくリニューアルして全家庭へ再配布・周知する。	
2	自己評価結果の公表と活用の透明性	アンケートの実施・集計は行っているが、その結果を「どう運営改善に繋がったか」のプロセスが十分に見えていなかった。	「皆様の声を受けてここを改善しました」というフィードバック専用の掲示スペースや会報コーナーを新設する。	
3	関係機関(園・校)とのインクルージョン連携	連携自体は行っているが、パート職員を含めた全スタッフが外部との情報共有の進捗を把握しきれていない面がある。	サポートファイルの活用や、園との合同ケース会議の記録を全スタッフがいつでも確認・共有できる仕組みを整える。	